

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170503189), 法人名 (社会福祉法人 愛全会), 事業所名 (アビターレグループホーム ローマ館), 所在地 (札幌豊平区平岸2条2丁目1-1), 自己評価作成日 (平成24年10月12日月), 評価結果市町村受理日 (平成25年1月20日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者総合福祉施設の5階にある3ユニットのグループホームです。住宅街に立地しており、交通の利便性に恵まれております。5階であることから、藻岩山・手稲山・札幌の街並みを一望でき、四季を感じられることも特長の一つです。5階に留まらず共有部分では広さもあり、軽い散歩や気分転換が出来、また、くつろげる空間が多く設けられています。高齢者総合福祉施設の機能を利用し(カラオケ・喫茶・ファミリーダイニングでの食事会など)生活の幅を広げ、3ユニットのスタッフ連携を取る事で(合同カンファレンス・日々の3ユニットの申し送り)入居者様の行動範囲が広がり、伸び伸びと生活されております。町内会の一員として、地域的美容室やスーパーマーケットを利用し、町内のお祭りや、イベントに積極的に参加しております。町内会長、婦人部長の皆様には運営推進会議に参加して頂いております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0170503189-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号), 訪問調査日 (平成24年12月5日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

アビターレグループホームは、札幌市豊平区の住宅街に位置する5階建ての高齢者総合福祉施設で、1・2階がデイサービスと機能訓練などの施設、3・4階がナーシングホーム、5階がグループホームで、ローマ館・ヴェネチア館・ミラノ館とワンフロア3ユニットの、ヨーロッパ調の雰囲気漂う設備になっている。最上階のため、見晴らしがよく市内が一望でき、花火大会もホームから見学できるなど、四季折々が見られる素晴らしい眺望で、利用者が毎日楽しみな住まいである。運営に対する基本姿勢は、利用者が「笑顔で暮らせる」ことを全職員が真摯に思っており、年1回利用者・家族へのアンケート調査を行い、利用者・家族の意見・要望等を把握し、運営に反映させている。今年は、ユニット毎の理念を利用者と職員が一緒に考え、新しく作成し、日々のケアの実践に活かしている。高齢者の総合的な福祉施設として、また、地域の拠点として期待されるグループホームである。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい生活を支援出来る様入居者様の理念に掲げている。理念を意識したケアプランを作成している。	利用者と職員と一緒に検討し、利用者の思いと職員の思いを込めたユニット毎の理念を作成し、利用者・職員が共有してケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており回覧板を回して頂き行事等に参加している。また地域のスーパーマーケットや美容室を利用したり、散歩などで日常的に挨拶などを行っています。	ユニット毎に町内会に加入しており、町内会の回覧板を回し、行事等に参加して地域との交流を行っている。散歩などでは挨拶を交わし、花を頂いたりして日常的な地域とのつきあいがある。	町内会に加入し、行事に相互に参加するなど積極的に地域との交流を行っているが、高齢者総合福祉施設の設備を地域への還元として有効活用するなどして、地域との更なるつながりを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常生活の中での地域の方との交流の際や運営推進会議を通して認知症の方への理解や支援の方法を深めて頂くよう働き掛けています。地域の学生の総合教育の受け入れや実習生の受け入れを行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を行い、生活の様子や事故報告をお伝えすると共に、地域の代表や入居者様、ご家族様も参加し意見や要望を聞き、サービスの向上に努めています。	定期的に運営推進会議を行い、町内会長始め婦人部長や包括センター職員、利用者・家族などが参加し、行事などの報告や意見や要望を聞き、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市や各区の連絡会議に出席し、他事業所の方々との交流や情報交換しサービスの向上に努めています。また市担当者に毎月の利用状況の報告を行っています。	管理者が市や区の連絡会議に参加して、区の代表や市の副代表を務めるなどし、同事業者間での情報交換や交流を行い、ケアサービスの向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会が中心となりマニュアルを作成しそれに基づいたケアを行っている。	身体拘束防止委員会がアビターレの施設全体とグループホームにそれぞれあり、スタッフがそれぞれ担当して、身体拘束をしないケアの研修を行い、マニュアルに基づいたケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止システムによる研修会にスタッフが参加し理解浸透に努めている。法令遵守に向けた研修も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修により理解を深めるよう努めています。必要性がある場合にはその都度関係機関と協力していただける様、体制を整えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に添って丁寧に説明させて頂き、入居者様やご家族の疑問や不安をお聞きし、理解納得した上でサインを頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置やご家族様へのアンケートを行い、意見要望等を取り入れ反映させています。又、ご入居者様、ご家族様の様子から、気持ちを汲み取る努力をしております。	意見箱の設置や年1回のアンケート調査を行い、利用者や家族の意見や要望を聞き運営に反映している。また、行事を増やし利用者・家族の意見を聞く機会を増やすなどの工夫を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の愛全会管理者連絡会議があり意見要望を伝える機会を設けて、反映させています。また年2回自己申告書により職員の意見や提案を聞く機会があります。安全対策効率化委員会でも年一回職員ストレスアンケートを実施し改善に取り組んでいる。	年2回の自己申告書による職員の意見提出や月1回のグループ全体の管理者連絡会議で職員の意見等を把握して、運営に反映させている。また、年1回ストレスアンケート調査も実施しており、職場の改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己申告書で個々の努力等を述べる機会があり面接も併せて行います。資格取得後は資格手当が支給され、向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間に行われる外部研修の情報を収集し、また内部研修の年間計画を立て、職員の段階に応じなるべく多くの職員が受講できるようにしています。新人職員に対しては、ケア指導マニュアルにて丁寧な指導を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム地区連絡会議に参加している。法人のグループホーム19ユニットのネットワークで、勉強会・委員会を行っています。又、年2回交流会を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に出来る限りご本人・ご家族に会いお話をする機会を設け、顔なじみの関係を作るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族に会ってお話を伺い困っている事、心配な事、続けて欲しい事などを話して頂き、ご家族様の心情を汲み取り関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状態を確認し、必要なサービスに繋がるように柔軟な対応をしています。その人らしいケアプランが出来る様努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主役がご本人である事を職員間で強く認識し、ご本人のペースに合わせた生活をする事で、疑似家族な関係になるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や、気づき等をお便りや電話面会時にお知らせしています。又、行事等へのお誘いを行いご本人とご家族様の共有時間が持てる様努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の来訪時にはゆっくりお部屋やリビングで過ごして頂いています。年数回のお墓参りやご自宅への外出、ご家族・ご姉妹での食事会、学生時代の友人との文通や電話を継続しています。	利用者同士のグループで馴染みの飲食店への外出や近隣の馴染みのスーパーへ買い物へ行くなど本人の馴染みの人や場との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事仕事などを介して出来ない方への気配りや支え合いをしています。コミュニケーションを取りにくい入居者様にはスタッフが間に入り、孤立する人がいないように配慮し、外出レクリエーションで利用者様同士が係わりを持てるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・退去された方にはその後の状態の情報を確認する為にもお見舞いやご家族に連絡をし馴染みの関係を継続している。又、各種関係機関とも連携を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の生活状況を踏まえ、アセスメントを行い、日々の関わりで、ご本人の表情、言動、行動を観察する事で、ご本人の希望を聞き入れ、又、思いを引き出すよう努めています。	利用者や家族から以前の生活状況を聞き、アセスメントを行い、一人ひとりの思いや意向を日々の関わりで把握して本人本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からの情報提供を基に、ご家族・ご本人からの情報を集めたり、日々の会話の中から生活歴・環境・交友関係等を探りケアに役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズム、心身の状態、有する力をアセスメントし、総合的に把握する事で、ケアプランに展開し現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	都度モニタリングと評価をカンファレンスで検討し、本人・家族の要望・医師・看護師の意見を聞きながら内容を検討し、介護計画書を作成している。	本人・家族の意見・要望、医師・看護師の意見を聞き、職員で検討して介護計画を作成している。モニタリングは都度実施して、評価をカンファレンスで検討し介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気付いた事は、申し送りでも共有しケアプランに添った記録をしています。その方の行動・表情を具体的に記録し、ケアプランの見直しにも活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時など家族が対応できない場合はスタッフ同行し、事業所の車両を出すなどのサービスを行っています。また、デイサービスに通っていた時から行っているエコクラフトを継続しナンシングホームの方と一緒にしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会で行われる花植え、お祭り等に参加したり、地域のスーパーや美容室の協力を得て、お買い物、気分転換をして頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に添ってかかりつけ医を選んで頂いています。また、医師との契約に基づいて訪問診察を受けている方もいます。	利用者・家族の希望により、かかりつけ医を決めており、受診の際は、家族同行又は職員同行で支援している。受診内容は生活記録表に記録して共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康管理(訪問看護師)の際には、心身の状態について報告しています。又、緊急時以外でも、日頃から相談できています。医師との連携も取れています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供しています。ご家族・医療機関の相談員等と連携しながらご本人との面会を行い、早期退院に向けて話し合いを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に書面にて重度化した場合の事業所が対応し得る最大のケアについて説明している。また、重度化した場合でも協力機関と連携をし、ご本人やご家族にとって良い方法を話し合っています。	契約時に重度化や終末期の対応を説明しており、重度化した場合は協力医療機関と連携して、本人・家族と打合せしながら最善の対応に取り組んでいる。また、ターミナル研修に年3回参加して積極的に学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設全体で救急対応が出来る様、定期的に研修会を行い技術を身に付けている。また、3ユニットで対応できるように緊急連絡網がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日、防火点検表にチェックをつけ、火災を出さない取り組みをしています。また、年2回の日中・夜間を想定した避難訓練を行い、避難場所、方法を理解している。	年2回ナーシングホームと合同で日中・夜間を想定した避難訓練を行っており、避難場所なども周知している。また、毎日防火点検表に基づいて点検している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り時には、場所・声のトーン・実名など言わないよう配慮している。ご本人の気持ちを大切に考えさりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするよう努めている。	本人の気持ちや人格を尊重して、さりげないケアを心がけ、自己決定しやすいよう努めている。また、言葉かけの場所やトーン・実名など申し送り時に配慮するよう日々周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に合わせて選択出来る様に配慮している。表現がうまく出来ない人には、サインや行動や表情を見逃さないように努めています。何事も伺いながらご本人に決めて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・入浴・レクリエーションなど一人一人のペース、体調、思いに添って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	さり気ない声かけをする事で、整容をして頂いています。お化粧やヘアスタイル、ネイルなどその人らしいおしゃれが出来る様努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の得意な事(材料刻み・調理・盛り付け・片付け・配膳)などを一緒に行っていきます。力を発揮できる場を提供し食事を楽しむ雰囲気作りに役立てています。視覚・臭覚に働きかけています。	食材は3ユニット共通だが、ユニット毎にそれぞれ工夫した調理を利用者と共に行っている。週1回自主メニューがあり利用者からの意見を聞くなどして、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立メニューを提供しています。一人ひとりの状態や力、習慣に応じて刻み食・ミキサー食・とろみ食・極軟菜・栄養補助食品等を提供しています。ご本人の使用しやすい食器選びも行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	施設内に週一回の訪問歯科があり必要時に利用している。また、毎食後の口腔ケアについて、出来ない方には声掛けや準備、お手伝いを行い口腔内の清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分摂取と合わせて排尿チェック表を利用し、それぞれの排泄パターンに応じてトイレ誘導を行っています。なるべくオムツの使用を控えトイレで排泄出来る様取り組んでおります。	担当者による個別記録を職員が共有し、排泄パターンを把握して、トイレでの排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳・ヨーグルトを飲んで頂いたり、飲水量の確認を行うことで水分不足にならない様努めています。また、野菜を多くとれるように工夫したり体操などで身体を動かして頂いています。医師と相談し下剤の調整も行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事前に声掛けし、意思確認をしています。午前・午後問わず、ご本人の希望時やタイミングに合わせてゆっくり入浴して頂き、入浴剤や室内温度にも注意を払いリラックスして入浴できるよう努めています。	週2~3回の入浴ができるよう対応しており、拒否する利用者には、入浴剤などで、工夫して気持ちよく入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調・習慣を基に安心して休める環境を提供しています。入床や起床時はご本人のリズムに合わせています。また、夜間ぐっすり眠る事が出来る様日中の活動を通して生活リズムが整うよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方都度の確認を始め、必要に応じ薬剤師から指導を受けています。又、定期的な薬に関する研修を行い、薬に対しての知識を得、日々のケアに活かしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を把握し、食事作りや後片付け、テラスの鉢植えのお手入れなどをして頂いています。お誕生日には、その方のお好きなメニューやご家族を招いて楽しんでいただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に近隣のスーパー、美容室、散歩(施設の庭や公園)に出かけています。また、季節ごとに行事計画をたて出かける機会を作っています。お花見、紅葉狩り、野球観戦、サーカス、音楽発表会などご本人の希望や興味のある所に出かけています。ご家族と連携をとり温泉旅行に出かけた方もいます。	近隣のスーパーや美容室、散歩など日常的な外出を支援している。また、野球観戦やサーカス、音楽会など利用者の希望に合わせた外出も多く、利用者にとって外出が楽しみなものとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方はご家族の了解を得て、売店やスーパーなどで買い物支払いをしています。事業所で管理している人でも外出時や喫茶店の支払いをご自分で行って頂けるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内の電話は、自由に使用できるようにしています。また、友人・ご家族に気軽にお手紙のやり取りが出来るよう支援しています。ケアプランに掲載されている方もいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとしたリビングには大きめのソファを置きくつろげる空間にしています。生活音にも気をくばり、食事中は軽音楽を流しています。季節に合わせた飾り物などを一緒に飾っています(ひな人形・五月人形・クリスマスツリー・テラスの鉢植え)	グループホームが5階建施設の最上階のため、居間からの見晴らしがよく市内が一望できる。広々としたリビングで、季節の飾りも調和しており、食事の際はさりげない軽音楽も流れ、ゆっくりと居心地のよい共有空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分の廊下には椅子・テーブルを置き3ユニットの入居者様の交流の場になっている。リビングにも所々に椅子を置き、工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、ご家族と相談し使い慣れた物を持って来て頂いております。お部屋には自分で作った作品などを飾り、安心して過ごして頂けるよう配慮しています。	本人の使い慣れた家具や馴染みのものなどを活かした居室となっており、居心地良く暮らせる居室の配慮をしている。また、入口には表札に代わるメモリアルボックスという本人の記念の品を収納した箱を目印替わりに飾って、各室の工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のわかる事出来る事を見極め、見やすい時計やカレンダーをかけた必要目印を付けている(トイレの絵など)。状況に合わせて居室の環境整備をし、ご本人が安全で自立した生活が送れるように努めています。(お部屋の窓にポールをつけて、洗濯物を干し易い様に等)		